



日本天文学会に合わせた

天文イベントの実施とその報告

塚田 健 (平塚市博物館)、矢部あずさ (筑波大学計算科学研究センター)
大重維貴乃 (天プラ)

1. はじめに

去る 2011 年 9 月 19 日～22 日、鹿児島大学において日本天文学会秋季年会 (以下、天文学会) が開催されました。ご存じの通り、天文学会は日本の天文学研究者が集まり発表し合う場としては日本で最も大きな会合であり、のべ 1,000 人を超える天文学の研究者 (以下、研究者) が開催地 (今回は鹿児島市) に集まることとなります。ですから、鹿児島市内の研究者人口がこの期間中、普段の何倍にも何十倍にもなるわけです。もしかしたら飲み屋の隣の席で騒いでいるグループは研究者の一団? ということもあり得るわけです。

このことは、市民の方々と天文学の研究者たちが触れあう機会が増えることでもあり、天文学の普及活動を行なう大きなチャンスです。天文学会も、学会の前後には「公開講演会」を開き、市民の方々に対する普及活動を行なっていますが、我々はこのチャンスを最大限に活かすため、学会期間中にいくつかの天文イベントを企画しました。なるべく多くの市民の方々が参加しやすいように街中で、かつ地元鹿児島の方たちと協力してイベントを企画立案していきました。

企画したイベントは、次の通りです。

さつま宇宙塾

第 1 回 9 月 18 日 (日) 17:30～19:00

講師: 亀谷和久 氏 (宇宙科学研究所研究員)

第 2 回 9 月 19 日 (月・祝) 11:00～12:30

講師: 松岡良樹 氏 (名古屋大学特任助教)

第 3 回 9 月 19 日 (月・祝) 17:30～19:00

講師: 津村耕司 氏 (宇宙科学研究所研究員)

会場: マルヤガーデンズ

主催: 天文学普及プロジェクト「天プラ」

共催: 計算基礎科学連携拠点

星空カフェ

9 月 20 日 (火) 14:00～16:00

ゲスト: 成田憲保 氏 (国立天文台研究員)

会場: FUKU+RE cafe

主催: 天文学普及プロジェクト「天プラ」

共催: 計算基礎科学連携拠点

サイエンスパブ

9 月 20 日 (火) 19:00～22:00

ゲスト: 渡部潤一 氏 (国立天文台教授)

天体発見賞、天文功労賞等受賞の
皆さん

会場: YUINOYA

主催: サイエンスパブ実行委員会

共催: 計算基礎科学連携拠点

以下では、それぞれのイベントの様子について簡単に報告します。

2. 「さつま宇宙塾」

天文学者によるトークイベント「さつま宇宙塾」は、天文館にある総合商業施設「マルヤガーデンズ」のイベントスペースにて、2 日間で計 3 回行ないました。定員は各回 20 名に設定し、事前登録制としました。事前の登録人数が定員に達しなかった回もありまし

たが、当日の飛び入りの参加もあり、結果として3回で60名以上の方に参加していただきました。また、当日参加者からリピーターとなった方もいました。

今回使わせていただいたイベントスペースは雑貨屋、パン屋、眼鏡屋などの店舗に囲まれた場所にあり、一面が通路に開放された状態でした。そのため、買い物客や店員の方も外から会場を覗くことができ、そのままイベントに参加された方もいました。また、2回目と3回目の間の空き時間にMitakaを行なうことで、もともとイベントに参加する予定のなかった通りすがりの子供たちやカップルに、宇宙に親しんでもらう機会も持つことができました。

いずれの講演でも、自身の研究テーマを伝えるためには、観測対象となる天体や現象と、観測機器である望遠鏡などの両方の解説が必要でした。必然的に盛り沢山で、歯ごたえのある内容となりましたが、講師の方々それぞれがより、親しみやすくする工夫を試みられていました。

第1回の亀谷さんの講演は「星の誕生のドラマに迫る」。天体写真を星の一生の順番に並べるクイズを出題。輪廻や星の質量による分岐など一筋縄ではいかない問題で、会場からも複数の案が出ました。正解者には恒星の一生を描いたトイレトペーパー(ATP: Astronomical Toilet Paper) 1ロールが賞品として贈られました。(来場者全員にも、星「一生分」のトイレトペーパーが渡されました)

第2回の松岡さんのテーマは「宇宙の明るさを測る」。「真っ暗なディズニールンドにろうそく3本の明るさ」という表現でメディアにも取り上げられた研究成果です。松岡さんは、宇宙の明るさの測定方法を説明するために、光源である銀河をホテルに例えていました。宇宙の明るさと銀河の個数を、部屋の明るさとホテルの数に対応させることで、宇宙

のスケールのまま考えるよりも、イメージしやすくなったのではないかと思います。

第3回の津村さんのテーマは「小さなロケット望遠鏡で宇宙最初の星をさぐる」。ロケットに搭載した赤外線望遠鏡での観測は、地上の望遠鏡や人工衛星を用いた観測とどのように違うのか。天文に関心が高い人でも、なかなか聞く機会の無いテーマだったと思います。スライドには写真や動画がふんだんに使われており、また観測に用いた本物のロケットの一部も持ち込まれており、「生」の雰囲気味わえました。この回では朝日新聞の取材も入り、講演の概要と質疑応答の様子が翌日の鹿児島版朝刊に写真入りで掲載されました。

「さつま宇宙塾」は日曜日と祝日に設定されていたこともあり、比較的参加しやすいイベントだったと思います。実際、天文に詳しい人から、全く知らないという人まで、幅広い層の参加がありました。

今回のイベントではスライドの途中でも質問を可能とし、講師とは別にファシリテーターを置くことで双方向での会話を増やすようにしました。ただ、会場からの質問もそれなりにありましたが、ある程度専門知識を持っている方からの質問が多数であり、参加者の誰もが気軽に質問できる雰囲気を作るための努力がより必要だったと感じています。



図1 第1回さつま宇宙塾の様子

3. 「星空カフェ」

「星空カフェ」は、宇宙に親しむためのカフェイベントで、美味しいお菓子とお茶を同伴に、最先端の天文学の世界に親しんでもらうことを主眼としました。生憎、台風が近づいている悪天候での開催となりましたが13名の方にご参加いただきました。もともと天文がお好きな方や、cafeによく来るという方もいました。

ゲストは国立天文台研究員の成田憲保さん。「低温度星のまわりの生命居住可能惑星を探そう」と題し、地球以外の生命探査にもつながる「系外惑星」についてお話していただきました。はじめは、系外惑星発見の歴史や、その探査方法、種類のお話でした。系外惑星を調べると、太陽系以外の惑星にはさまざまなタイプがあり、太陽系のような惑星系が宇宙において普遍的でないことがわかります。しかし、その中には地球に似たような環境を持ち、液体の水が存在すると考えられるような惑星もあるはずです。そんな地球に似た惑星を探し、今後の系外惑星探査プロジェクトについて紹介がありました。「生命ってなんだろう？」という問いに迫るものでもあり、とてもわくわくするお話でした。



図2 星空カフェの様子

また、実際に逆行惑星を見つけた成田さんの研究がインターネット上のニュースになっ

ていたり、前の週まで行われていたという研究会で系外惑星の数が一気に増えたというお話があったり、まさに研究の最先端ということが感じられる内容でした。

2時間という長い時間でしたが、おいしいケーキとお茶を手に休憩時間が足りないくらい、参加者の方のお話が弾んでいました。

4. 「サイエンスパブ」

サイエンスパブは、お酒を傾けながら天文学や星の楽しみを語り合うイベントです。今回は、天文学会にて表彰があった天体発見賞、天文功労賞の受賞者をお招きし、新天体発見の話などを肴にサイエンスパブが行なわれました。

専門家、天文関係者、一般の方まで30名を超えるたくさんの方々が集まり、大変おいしいお料理とお酒と共に、肩書きは関係なく、「星が好き」という純粋なつながりで話は大いに盛り上がりました。天体発見賞・天文功労賞を受賞された方からは、どのようにして天体を発見したかといった天体観測エピソードを聞くことができたり、参加者からは鹿児島県入来にある観測施設や地元のプラネタリウムに関する質問が出たりと、普段はなかなかできない話をする機会となったようでした。

立食形式のスタイルで行ない、お酒の力もあって(?)、研究者も一般の方も区別なく、非常に近い距離で会話を行なうことができ、ひとりの人間としての研究者と一般の方々が話をする事ができる、そのような場にできたと考えています(地元から参加された方の中には、普段から科学雑誌などを読んでいて宇宙について興味はあるが、なかなか話を聞ける機会がないので今回のようなイベントを待っていました、という方もいました)。ゲストでお招きした方々が天体発見賞・天文功労賞を受賞された方々ということもあり、天

文学会が開催され、研究者が集まっているときならではのイベントになったと思います。

5. おわりに

学会開催地にてこのようなイベントを行なうことは初めての試みでしたが、学会に参加している研究者、地元鹿児島の方々をうまく巻き込んで、天文普及活動ができたのではないかと考えています。今後も、学会開催地で行なうことにより、このようなイベントが地域に根付いていくことを目指していきたいと考えています。

また、今回のイベントについては、それぞれ参加者に対してアンケート調査を行っており、その結果も踏まえた報告は日本天文学会の「天文月報」に投稿を予定しています。

最後に、会場を提供して下さった下記の皆さんに心より御礼を申し上げます。

- ・ マルヤガーデンズ

<http://www.maruya-gardens.com/>

- ・ FUKU+RE Cafe

<http://fukure.ocnk.net>

- ・ YUINOYA

<http://yuinoya.com>

また、本イベントは企画立案から当日の運営まで、下記のメンバーで行いました。改めて名前を挙げさせていただきます（順不同、敬称略）。

中武貞文（鹿児島大学）
 半田利弘（鹿児島大学）
 前田利久（鹿児島県天文協会）
 山岡 均（九州大学）
 高妻真次郎（中京大学）
 吉戸智明（筑波大学計算科学研究センター）
 矢部あずさ（筑波大学計算科学研究センター）
 高梨直紘（東京大学、天プラ）
 川越至桜（東京大学、天プラ）
 日下部展彦（国立天文台、天プラ）
 松本尚子（国立天文台、天プラ）
 夏苺聡美（国立天文台、天プラ）
 亀谷和久（JAXA、天プラ）
 佐藤祐介（北海道大学、天プラ）
 浅見奈緒子（日本教育大学院大学、天プラ）
 大重維貴乃（天プラ）
 塚田 健（平塚市博物館、天プラ）

塚田 健

矢部あずさ

大重維貴乃

* * * * *